

「光の道」WG (第5回)の結果について

1. 日時

2010年9月24日(金)10:00~11:45

2. 参加者

山内主査、相田構成員、北構成員、篠崎構成員、吉川構成員

3. 議論の概要

ボトルネック設備利用の同等性確保の在り方、総合的な市場支配力に着目した規制の在り方について意見交換を行った。

【主な意見】

- ボトルネック設備利用の同等性確保については、「アクセス網」だけを考えれば良いのか。それとも、「アクセス網とコア網」の全体で考えた方がよいのか。
- 本当の根源となるボトルネック性は、局舎、とう道、電柱などの線路敷設基盤にあるのではないか。
- 証券会社は、リテール部門とホールセール部門の分離をかなり厳しくやっている。今後の検討の参考になるのではないか。
- 新たな施策を講じることによって、今後発展する通信プラットフォーム市場やコンテンツ配信市場の成長に寄与することが重要ではないか。
- 総合的な市場支配力の概念は、ネットワークレイヤーだけでなく、今後、重要となるプラットフォームやコンテンツのレイヤーも含めてきちんと議論とすることが必要ではないか。
- 県域等子会社は、禁止行為規制等の法改正(2001年)後に設けられている。このような法改正時に想定していない事業運営の実態をどのようにカバーしていくのか。
- NTT西日本の情報の目的外利用の件は、県域等子会社でなくても、資本関係のない業務委託先でも起こりうるのではないか。
- 新しいルールを作っても、技術や事業環境の変化が激しいので、柔軟な見直しの仕組みを考えておくことが必要ではないか。
- 具体的な検討を行うためには、NTT東西の業務運営の実態などを把握することが必要。可能な範囲で調べてもらいたい。

4. 今後の予定

次回は、10月4日に開催することとなった。